

# WANTED

和名:ウチダザリガニ

学名:*Pacifastacus leniusculus*

“ウチダ”はこのザリガニを研究した北海道大学の内田亨氏への献名に由来  
在来種ではない!

青白色の斑紋

英語名 *Signal crayfish*  
はこの特徴に由来

## 「特定外来生物」ウチダザリガニを探しています

北アメリカ原産の外来生物。昭和初期に食用として北海道の摩周湖に導入され、北海道内に広がりました。在来水生動物や水草を食害し、在来のニホンザリガニに致命的な感染症「ザリガニかび病」を媒介し、阿寒湖ではマリモに穴をあけるなどの問題をおこしています。

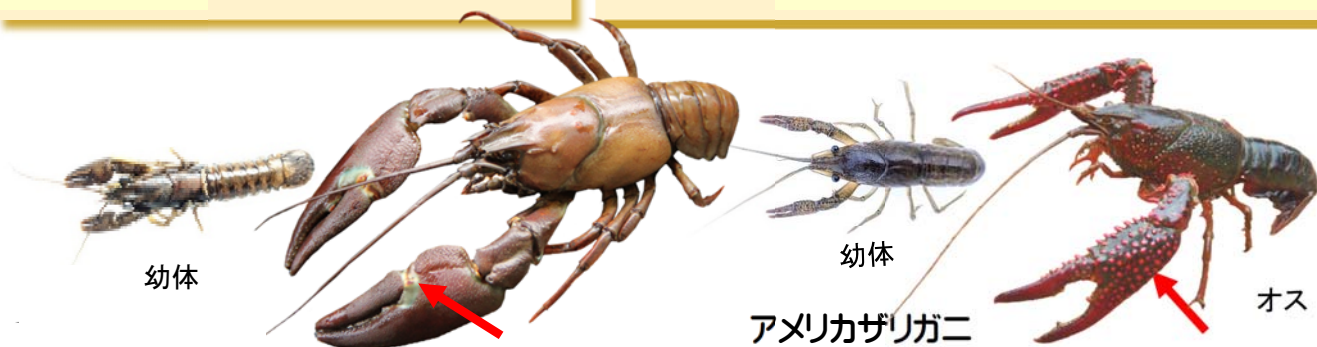
その後福島県裏磐梯の湖沼に持ち込まれましたが、新潟県内では平成23年(2011年)に阿賀町日出谷の阿賀野川で初めて確認され、下流や支川に分布を拡大しつつあります。

### ◆特徴

体長15cm、鋏脚(ハサミ)を入れると25cmに達する巨大なザリガニ。オスは特に鋏脚が大きい。体の色は暗緑色～茶褐色、鋏脚のつけねに大きな青白色の斑紋があるのが特徴。

### ◆飼育、移動禁止の侵略的外来生物

生態系に大きな被害を及ぼすため、外来生物法で「特定外来生物」に指定され、飼育や放流、生体の移動や販売が禁止されている。違反者には、個人では3年以下の懲役または300万円以下の罰金、法人の場合は1億円以下の罰金が課せられる。



ウチダザリガニ

オスのハサミは強大、目立つ突起はなく、根元に空色の斑紋がある

オス

アメリカザリガニ

ウチダザリガニほど大きくならない。若い個体は緑黄褐色、成熟すると赤色。ハサミの表面にツブツブ、トゲトゲの突起がある。

オス

新潟県内に生息する北アメリカ原産の2種類のザリガニ (※新潟県内にニホンザリガニは生息しない)

情報をお持ちの方はご連絡ください

生物多様性ネットワーク新潟 事務局

メール:naturewk@basil.ocn.ne.jp

電話・FAX: 025-270-2010 (井上)

2021.12.18



# WANTED

和名：フクドジョウ

学名： *Barbatula oreas*

近縁種が極東アジアに分布する

北海道原産。全長は10～15cmほど。幼魚は一見シマドジョウに似るが、胴体は太い。冷水域を好み、酸素欠乏には弱い。早瀬の礫の間に住み、遊泳力が強い。主食は水生昆虫や付着藻。

れきてい  
礫底でくらすフクドジョウ  
頭部は上下にやや平たく、水底ですわりが良い

## 国内外来種 フクドジョウ を探しています

北海道原産のドジョウの仲間で、東北地方や関東の一部に定着、サケ科魚類の放流に紛れ込んだと考えられます。1990年代後半に福島県内で確認され、2011年には阿賀川（阿賀野川上流）に広がり、新潟県内の五泉市馬下付近でも1個体記録されました。2015年には五泉市早出川の善願橋や太川橋付近で初めて確認され、現在、上流や支川に分布拡大中。さらに、能代川の支川や安野川、折居川などに、用水路網を通じて分布を拡大しているとみられます。

### ◆今のところ 法的規制はないが、在来魚や底生動物にとって大きな脅威

繁殖力が強く、大量の水生昆虫を捕食して急速に成長し、1年で8cmに達するものもあるという。同じような環境に住む底生魚（カジカやアカザ、シマドジョウ、ヨシノボリ類など）と、食物や住み場所をめぐる競争し、深刻な被害を及ぼしているものとみられる。



フクドジョウの体色斑紋はさまざま



カジカ



アカザ



シマドジョウ



トウヨシノボリ

フクドジョウによって追い詰められる在来魚

情報をお持ちの方はご連絡ください

生物多様性ネットワーク新潟 事務局

メール：naturewk@basil.ocn.ne.jp

電話・FAX：025-270-2010（井上）

2021.12.17